

是より遠く和歌新く天正十八年三月朔日関白秀吉公
関東の北條氏政卿征伐所勢二十万騎伏見所立北由
奥羽両方にも聞へり戸次盛安公日以忠義をこたへま
さんと諸人小抽上り所陳を聞や否や一騎當千の若者
共十六騎撰んで密に角館を市立玉ふ其人小戸次
常將監當野上所井関五所八荷造酒之元鈴木清
松村藤十次所茂木忠兵衛遠藤左市戸次彦九所
毛利大助太田治兵衛都合十七騎何れも歩立立
由利を越大山小越り酒田北溪加賀屋典助といふ者れ

方止宿一むと統るふ盛安公路恨不足一ては不近ま
む共明日より援助れ價かりれむ如何せん評定せられけ
るを次れ同かく宿此共助是を聞其後盛安公の御前
に上りて一むと果累年御恩を蒙る事ありとせられ
も御手文仕同浦の通金子拾七兩取上り奉りて盛安
公より欠るべ給ひむひも御評定をいぬるあり
所自身の詮文を讀みそれより通を急げむひ一旗
三月十日の夜遠品越川小着後陳の大勢ありとを
通り金谷れ宿小着秀吉公大井川の宿小打をめぐ
川を渡り見渡しむと二三日降候きたる雨ふ川水高く